

日本学術会議 科学者委員会 学術の大型研究計画検討分科会（第8回）

議事要旨

日時 2012年10月9日（火）16:50-18:40

場所 日本学術会議 5-C（1）会議室（5階）

出席者 荒川委員長、松沢副委員長、長野幹事、西尾幹事、今田委員、岩本委員、大隅委員、岡田委員、田中委員、永原委員、樋口委員

オブザーバー 相原 博昭教授（第三部会員）

陪席 文部科学省研究振興局学術機関課（加藤様）、日本学術会議事務局（石原参事官、中島上席学術調査員 他）

配布資料（添付省略）

(1) 前回議事要旨（案）

(2) 22期学術の大型施設計画・大規模研究計画に関するマスタープラン策定の方針（案）（平成24年9月25日付）（以下、本資料を「マスタープラン策定の方針（案）」と略す）

参考資料として委員名簿

議題

1) 前回議事要旨（案）の確認

前回議事要旨（メールにより承認済み）の再度の確認を行った。前回オブザーバーとして参加された武市先生より修正の申し出があれば、対応することとした。

2) 22期マスタープラン策定方針について

- ・ 第163回総会（2012年10月9日）で荒川委員長より「マスタープラン策定の方針（案）」について説明があり、この説明に対して若干の質疑応答はあったが、内容について反対あるいは変更を求める意見は出されなかった旨の確認がなされた。
- ・ 武市先生を通じて四役会議でも「マスタープラン策定の方針（案）」が紹介された旨の報告があった。
- ・ 「マスタープラン策定の方針（案）」について以下の点が修正された。
 - ① P.1下から7行目とP.3上から14行目の「研究者」を「科学者」に訂正
 - ② P.3上から4行目「もしくは」を「または」に訂正
 - ③ P.3下から9行目「2012年9月」を「2012年10月」に訂正後、「2012年10月総会へ報告」の次に移動させる。

上記の訂正を踏まえて、策定方針を確定した。

- ・ P.1下から5行目「大型計画を一般には必要としない学術分野にも配慮する」の「配慮」については、応募書類が提出されてから考慮することとした。この「配慮」について、採択件数を考慮するという意味ではなく、予算総額が数十億円に満たない応募について考慮する意味であるとの意見が出された。
- ・ P.2上から7行目「融合学術領域」について、部によっては分野別委員会と同等のレベルで融合学術領域を設けることが議論され、了承された。
- ・ P.1下から3行目「利益相反」について、議論された。

選考には下記の3段階ある。

- ① 200件の選考
- ② 100件の選考
- ③ 25-30件の選考

「大型研究計画の提案」の各段階の選考に対して、「分野別委員会委員長」、「各部の部長（あるいは幹事会メンバー）」、「審査小委員会委員（本分科会委員・分野別委員会委員長・本分科会が認めた会員もしくは連携会員）」、「推薦者（会員もしくは連携会員）」が利益相反について考慮すべき対象者になると考えられ、この点について更に議論を深めていく必要がある。

- ・ 「学術研究領域」の策定について議論された。

各分野別委員会で「学術研究領域」のリストアップ基準が異なる事が、「第一部 学術の大型研究計画のマスタープラン作成・素案準備状況」資料から見える。「学術研究領域」のリストアップ基準は「日本の展望 -学術からの提言」に基づいて策定されるものとの認識が分科会委員長より示された。

3) その他

次回は、11月中に開催の予定。

以上